

## 評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870400425
法人名	有限会社ファミリエ
事業所名	グループホーム橙園
所在地	愛媛県八幡浜市保内町宮内 1 - 5 8 3 - 1
自己評価作成日	平成28年12月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心身の障害があっても私らしく、あなたらしく、豊かに。人としての尊厳を守る介護」という橙園介護理念に添って職員全員が努力していることを、地域やご家族の皆さんが認めて支えてくださっていると実感しています。  
開設以来11年続いているレクリエーションボランティアの皆さんと家族のお付き合いであるのも自慢です。

職員は、ゆっくりとわかりやすく、利用者は何をするのか伝えながら支援している。業務カンファレンス時には、理念にもある「尊厳を守る言葉かけを行う」ことを皆で申し合わせている。  
落ち着かないような様子の中には、畑に野菜を採りに行く等、外に出る機会を作ったり、家族と電話で話したりできるよう支援している。  
ユニット間で日々協力し合って取り組んでいる。職員それぞれの家庭の状況に合わせた働き方ができるように、職員同士が業務等も協力し合っている。  
職員は、食べる楽しみについての外部研修を受講して、ミキサー食の利用者への支援について、目からも楽しめるように取り組んでいる。又、食前には口腔体操を行っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	1. <b>毎日ある</b> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. <b>利用者の1/3くらい</b> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム橙園

(ユニット名) サルビア

記入者(管理者)

氏名 有馬 房子

評価完了日 平成28年 12月 20日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			玄関や各ユニットに掲示し、誰でも見ることができるように している。また、職員全員が理念を理解し、個別のケアプラン も理念に基づいて作成している。	
			(外部評価)	
			「心身の障害があっても私らしく、あなたらしく、豊かに。人と しての尊厳を守る介護」と理念をつくり、玄関、各ユニットの 居間に掲示している。勉強会時には、管理者(法人代表者) が「介護する人される人ではなく、あなたも私も一緒の人であ る」「ここが利用者の居場所になるように」と話している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			毎月ボランティアの方に来ていただいたり、地域の行事や活 動には積極的に参加し、地域の方と交流している。	
			(外部評価)	
			自治会に加入して、地域行事には積極的に参加している。 利用者が一人で出かけて行った際、地域の方にも捜索の協 力を依頼したことがあり、そのあとは、これまで以上に事業所 に関心を持ってくれるようになっていく。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			小・中学生の学習や高校生の実習を受け入れ、利用者との 交流の中で、認知症の方への理解を深めていただくように 取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を行い、各種推進委員の方々に参加していただいている。会議では事業所の近況を把握していただき、適切な助言をいただいている。毎年4月の運営推進会議には地域住民参加のもとに運営状況を開示している。</p> <p>(外部評価) 会議は、併設の小規模多機能事業所と合同で行っている。家族には、3名の方に参加を依頼している。年1回公開会議を行っている。「日本GH協会」全国大会で事例発表して入賞したことを報告したり、評価についても説明している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 無断退去者の搜索、ヒヤリハットなどは必ず市の担当者に報告、相談し、アドバイスを受けている。</p> <p>(外部評価) 市社協から「市民後見人講座」での認知症についての講義依頼があり、協力している。介護相談員との交流会に出席している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 基本的に玄関の施錠は日中はしていない。また、勉強会を行い、知識を身につけ、職員全員が利用者の身体拘束は行わないという意識で取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 利用者が一人で出かける際には、職員が後ろからそっと付いて行き対応している。落ち着かないような様子の時には、畑に野菜を採りに行く等、外に出る機会を作ったり、家族と電話で話したりできるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  虐待防止などについて学習しており、虐待にならないよう職員間で注意し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  現在、利用者の中に成年後見制度を利用されている方がいる。その後見人が認定されるための必要事項において協力しうる限りお手伝いをした。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  入居時に十分説明を行い、理解、納得を得て同意のサインと押印をいただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  運営推進会議には利用者家族の参加もある。個別には、日頃の生活の中で利用者に希望を聞いたり、家族の来園時には近況報告を行い、その時に家族の要望なども聞くようにしている。  (外部評価)  家族には毎月、計画作成担当者が、利用者個々に写真にコメントを付け、健康状態や作業活動、次月の行事予定表等を用紙にまとめ送付している。2ヶ月に1度、隣接小規模多機能事業所と合同で「橙園便り」を発行しており、法人全体の活動を報告している。	外部評価に際しての家族アンケート集計表等も参考にして、これからの取り組みを工夫してみたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年度初めの4月運営推進会議は運営状況の一般公開であり、職員も全員参加である。月1回の業務カンファレンスは運営に基づいた活動予定表、研修予定表を組み、報告もしている。	
			(外部評価) ユニット間で日々協力し合って取り組んでいる。職員それぞれの家庭の状況に合わせた働き方ができるように、職員同士が業務等も協力し合っている。事業所内研修、外部研修に積極的に参加している。その後、業務カンファレンス時に研修内容を報告して共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の事情に合わせて勤務シフトを組んでいる。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ヒヤリハットの段階で大事にならぬよう報告し合い、意見を述べ合っている。月に1度勉強会を行い、それぞれのレポートを提出している。また、外部研修で学んだことは業務カンファレンスで発表し、職員全体で知識や技術を共有できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の研修などに参加し、同業者との交流に努めている。 他事業所の運営推進会議に参加し、またこちらにも参加してもらっている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の生活状況をしっかり把握し、入居時はできるだけ早く環境に慣れ、安心してもらえるよう積極的に声かけを行い、利用者の気持ちを汲み取れるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 困っている事、不安な事の原因を探りながら、要望にどう応えるか話し合っている。介護プランにも入れて報告し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前面談で利用者の状況を把握し、他のサービス利用が適切と思われるれば紹介するなど柔軟に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 上から目線ではなく、共に笑い共に泣き、対等に言い合う間柄になることで信頼されることを職員も自覚しつつある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 月に1回のお便りでは受診状況、活動状況等を報告し、イベントや行事のお誘いもしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時は楽しく過ごせるよう配慮している。また、その時に写真を撮り、部屋に飾っている。 毎年大切な人へ年賀状を書いて送るようにしている。 (外部評価) 利用者の知人の訪問があった時には、居間で一緒に過ごせるよう案内している。家族が隣接小規模多機能事業所を利用する日には一緒に過ごせるよう支援している。家族来訪時に、利用者が「帰りたい」と希望し、家族と一緒に自宅に帰って、気になっていた畑等の見て来た方がいる。本人は安心して事業所に戻って来たようだ。職員は家族に「利用者にもっとかかわってほしい」ことを話して、関係が途切れないような支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人一人のレベルに合わせた誘導と見守りを行い、会話にはできるだけ職員も加わり、利用者同士でコミュニケーションが取れるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 手術入院→リハビリ→老健施設入所の経過において、病院、家族との連携支援をスムーズに行ったばかりである。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者本人に伺える時には本人に聞いている。そうでない方には家族に聞くなどして情報収集している。 意思疎通が困難となっても、その時々で表情で穏やかな安心を得られているかの確認をしている。 (外部評価) 入居時に、家族に聞き取りしてフェイスシートに利用者情報を整理しており、介護認定更新時に見直しを行っている。利用者個々について職員で話し合い、食事、排泄、具体的な支援方法を記述した日課表を作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に家族から入居に至るまでの経過や家庭環境を聞き取りし、グループホームで安心して生活していただけるよう支援計画を考えている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の記録に記入しながら生活援助を行うことで、利用者一人一人の一日の過ごし方や身体状況が把握できるよう努めている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	日々の介護記録をもとに3ヶ月ごとのモニタリングでケアカンファレンスを行い、支援内容が適切かどうかを確かめ合っている。	
			(外部評価)		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	ケアプランに添った介護記録を行うようにしている。また、気づきや特記事項は申し送りにて情報共有している。3か月ごとのモニタリングでカンファレンスを行い、介護計画の見直しをしている。	
			(外部評価)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	状況の変化に応じたプラン変更で対応している。	
			(外部評価)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	公民館活動やイベントに参加したり、地域の清掃作業等に参加し、地域の方と交流する機会を持ち、楽しみながら暮らせるよう支援している。	
			(外部評価)		

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)  家族と話し合い、希望されるかかりつけ医の受診の支援を行っている。	
			(外部評価)  管理者は、「病気を知らないとケアできない」と考えており、病気発症からの経緯や薬について解るように追跡調査を行っている。受診は、看護職員が行っていたが、現在は、食事・排泄・入浴との連携確認のために、介護職員も受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)  夜勤者からの申し送りは看護師が受けている。また、体調に変化があれば、すぐに看護師に報告し、必要に応じた病院を受診できるよう支援している。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)  入院した時は家族と共に病院と情報交換をしながら退院後もグループホームで安心して生活が出来るよう、対応の仕方について指導していただいている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)  入居時に「医療連携体制同意書」を締結しており、終末期(看取り)についてはその時々状態に合わせた内容で家族、医師の連名での同意書を締結している。	
			(外部評価)  医師が看取りの時期に入ったと判断した段階で、家族に看取り支援についての希望を聞いている。家族は、「ここで最後まで」と希望することが多く、方針を共有して支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			急変や事故発生時の対応については勉強会などで取り上げ、実践力を身につけるように努力している。夜間に直面した時は2ユニットの担当が協力し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			火災、水害、原子力、津波災害の各々日中、夜間に設定した避難訓練を行っている。訓練では担当を決め、全職員が対応できるよう努めている。	
			(外部評価)	
			6月の運営推進会議時に、隣接小規模多機能事業所と合同で火災想定避難訓練を行っている。地域で、津波想定避難訓練が行われた際には、地域の避難場所である公民館に利用者と一緒に避難した。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			「人としての尊厳を守る介護」が理念であり、心がけて対応している。	
			(外部評価)	
			職員は、ゆっくりとわかりやすく、利用者に何をするのか伝えながら支援している。業務カンファレンス時には、理念にもある「尊厳を守る言葉かけを行う」ことを皆で申し合わせている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			何かする時には必ず声かけを行い、本人の意思を確認してから対応するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の日課表に添ってはいるが、利用者の体調に合わせて、作業やレクリエーション、外出などの声かけ、援助を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理美容は資格を持っている職員が利用者の散髪を行っている。また、できるだけ利用者と一緒に服を選び、毎日同じ服装にならないよう配慮している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材切りや食器拭きを一緒にしてもらい、それぞれできることをしてもらっている。食事は食べやすい大きさに切って提供し、時間がかかってもできるだけ自分で食べられるよう支援している。 (外部評価) 食材は、栄養士資格のある職員が注文し配達してもらっている。職員は、食べる楽しみについての外部研修を受講して、ミキサー食の利用者への支援について、目からも楽しめるように取り組んでいる。又、食前には口腔体操を行っている。調査訪問時、利用者は里芋の皮むきをしており、食後は下膳する方もいた。さらに、食事を楽しむという観点から職員のかかわり方についても、配慮や工夫できることがないか話し合ってみてはどうだろうか。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 年間を通して献立表に基づく食事提供であるが、一人一人の状態に合わせて主食をお粥にしたり、副食をキザミにして提供している。食事摂取量は毎日チェックし、特に必要な人に関しては水分量もチェックしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分でできない人は毎食後口腔ケアをし、できる人に関しては歯磨きの声かけをし、口腔内の清潔に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 紙パンツ、尿取りパッドを使用しているも、日中はトイレで排泄ができるようにチェック表を確認しながらトイレ誘導を行っている。(失禁のある人も) また、訴えのない方は表情や様子を見て声かけ、誘導している。	
			(外部評価) 失禁がある方には、小まめに声かけしてトイレ誘導を行っている。トイレで排泄できた時には、「よかったね」と一緒に喜ぶようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 十分な水分、野菜類、果実などの摂取に留意し、毎日排便チェックを行い、便の状態を把握している。便秘がひどい場合は受診時に医師に相談し、便秘薬や緩下剤を処方してもらっている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週2回以上入浴するようになっている。1人で対応できない時には2人対応にて行っている。また、入浴の苦手な利用者には声掛けのタイミングや時間をずらすなど、無理強いすることなく入浴できるよう工夫している。	
			(外部評価) ユニット間で入浴時間をずらし、両ユニットの職員で助け合いながら支援を行っている。現在、休業中のデイサービスの広い浴室を利用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人のペースで居室やリビングで過ごしていただいている。また、体調に合わせて居室で休む時間も取り入れている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 専用のケースに朝・昼・夕・眠前に分けて用意している。記録用紙に内服薬の名前を記載しており、確認できるようにしている。また、内服薬に変更があった場合は必ず申し送り、情報共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お手伝いを頼んだ場合には感謝の気持ちを伝え、本人のやる気につながるよう努めている。また、外出や行事への参加など楽しみごとを利用者と共感できるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一般的には初詣でや地方祭、運動会、学芸会など地域行事参加等の外出行事を行っている。家族の面会時に一緒に家へ行ったり、美容院へ行ったり、銀行や買い物に行ったり、また、教会の礼拝にお連れすることもあったが、重度化により利用者全員が外出するのは難しい。	
			(外部評価) 隣接する小規模多機能事業所に遊びに行くことが多い。地域行事に積極的に出かけている。小規模多機能事業所の裏の畑で作業をする利用者もいる。玄関の前に東屋があり、ひなたぼっこしたり、一休みしたりしている。	意思表示が難しい利用者も複数おり、個々の情報をもとにして懐かしい場所や思い出の場所等にも出かけてみてはどうだろうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理は事業所(職員)が行っている。外出したり、行事に参加する時には、一人一人財布を用意して、自分で払っていただく等工夫している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が電話をかけたいと希望があれば、無理のない時間帯で支援している。また、送り物への礼状や、家族への年賀状を書いて送る支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			生活しやすい空間作りに配慮し、季節の花や壁飾りをすることで季節を感じてもらえるよう心掛けている。	
			(外部評価)	
			入り口には門松を、玄関には、水仙を生けていた。居間の一角に畳スペースがあり、調査訪問時には、洗濯物をたたむ利用者の様子が見られた。昼食後、ソファーに座り、おしゃべりしながら過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			リビングで過ごされる方が多く、テレビを見たり、洗濯物たたみなどをして、思い思いに過ごしてもらっている。また、食事等での席に配慮し、トラブルなく過ごせるよう努めている。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			入居の際に今まで使っていた物を持ってきてもらい、使い慣れた物を使っていた。家族面会時の写真や家族からの手紙などを壁に貼って安心を得る工夫をしている。ご主人の位牌を配して毎日御茶湯をしておられる人もある。	
			(外部評価)	
			家族来訪時に一緒に撮った写真を大きく引き伸ばして壁に貼っている。ボランティアに教えてもらって作った作品を貼ったり、花を生けている居室もあった。洋室・和室があり、利用者の状態や希望に合わせてベッドを置いている。又、畳に布団を敷いて休む方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			自分が描いた絵や好きな飾り物をタンスの上に置いたり、各居室の入り口に名前を付けたり、トイレの場所が分かるように表示したりしている。また、廊下にはできるだけ物を置かず、安全に移動できるよう配慮している。	
			(外部評価)	